

1. 開催日時・出席者等

○日時： 平成 31 年 2 月 15 日(金)15:30~16:30

○場所： 中央合同庁舎 8 号館 10 階 平井国務大臣室

○Pitch テーマ： Tech 系ベンチャーのスタートアップエコシステムの形成

○招へい者： 永田 暁彦 リアルテックファンド代表

○出席者：平井国務大臣、幸田内閣府審議官、三輪 CIO、高田局長（宇宙）、住田事務局長（知財）、堀内参事官（科技）、橋爪参事官（科技）、柴崎参事官（IT）、石井企画官（科技）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 永田代表からの説明

- リアルテックファンドは、リアルテック分野（ロボティクス、アグリ、新素材 等）に特化し、創業前～シード・アーリーステージを中心に研究開発への投資・事業化支援を行うベンチャーキャピタル（VC）である。ユーグレナ、SMBC 日興証券、リバネスの出資により創設した。
- ユーグレナ創業～上場の経験から、日本において大学発リアルテックベンチャーの成功体験があまりにも少ないことが課題と感じており、投資のみならず、技術 PR、HR、知財管理等、インハウスの専門家がサポートをする。他の VC の比しても非常に手厚いハンズオン支援を提供している。
- 2016 年度から合計 40 社のベンチャー支援を実施している。分野はエレクトロニクス、バイオ、航空宇宙をはじめ多岐にわたっており、また北海道～九州まで日本全国のスタートアップが対象となっている。

3. 主な質疑応答・議論

- 日本の VC は技術理解が乏しく、逆に海外の VC が目をつけ結果として良質な技術が海外へ流出してしまう事態が見受けられる。また大学発ベンチャーは、コアテクノロジーは保有するものの市場化リソースに欠け、その点で大企業との連携は欠かせないが、大企業の多くは経営判断が遅いため投資機会を逃してしまう等の課題が指摘された。
- リアルテックファンドでは、NEDO の研究開発型ベンチャー支援事業（STS）をシードステ

ージの供給資金として非常に有益に活用しているとのことであった。出資の形態ではなく補助金によるレバレッジなので研究者のリスクを担保できるほか、POC 段階でこの資金を活用し試作～量産化が見えれば VC も興味を持ってくる、という点も有用との意見があった。

- 他方、日本においてミドルステージ以降の（数十億円規模の）社会実装支援は圧倒的不足しており、例えば有機 EL の研究をしていた Kyulux 社においては、iPhone での有機 EL 採用が決まった直後に韓国企業による出資が決まる等、海外資本の後塵を拝した。リアルテック向け大型ファンドの必要性が議論された。
- 地方にも優良な技術は多数見いだせるものの、まわりに成功体験者がいないこともあり、なかなか起業に結び付かない、という指摘があった。技術の良さだけでは成功せず、だれがどうやるか、が起業においては重要であり、そのための人材登用・人材教育（公式支援者、大学職員等も含む）の重要性が議論された。有力なスタートアップに集中的に支援をすることで、各地方に「スターベンチャー」を育てるとよいのでは、という意見があった。

（了）

（速報のため事後修正の可能性あり）